



液肥を利用したハウスイチジクの冬季収穫技術

栽培条件

コンテナ：ミカンの収穫用コンテナ
 (培土量40リットル)
 結果枝本数：6本/樹
 (2400本/10a)

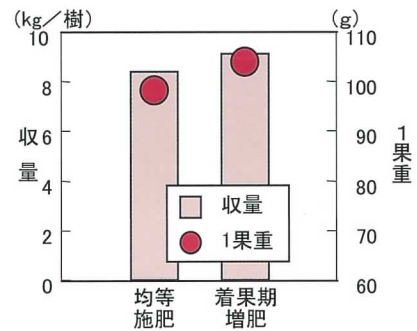
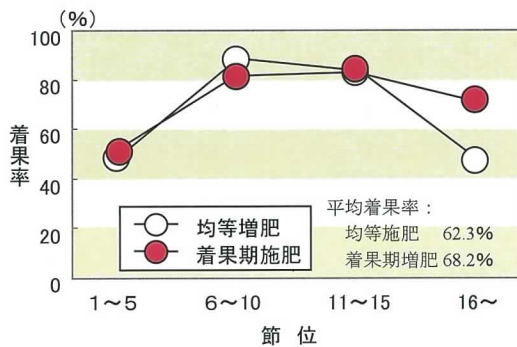
液肥として
 養液土耕用肥料を使用
 (N:P:K=15:15:15)
 750倍希釈



◎着果期～摘心期に増肥すると効果的

月あたりの窒素施用量

	着果期		摘心期				計		
	12月	1月	2月	3月	4月	5月		6月	7月
均等施肥	6	6	6	6	6	6	6	6	48 g/樹
着果期増肥	3	3	9	9	6	6	6	6	48 g/樹



イチジクのハウス栽培では、樹勢が旺盛で枝が徒長して生産が不安定なこと、土壤病害が発生しやすいことが問題となります。これらの問題を解決するため養液施肥によるコンテナ栽培技術に取り組み、収益性の向上が期待できる冬季収穫技術を開発しました。

この栽培方法では、加温開始から収穫終了までに1コンテナあたり窒素48gが必要なことがわかりました。また、着果開始から摘心期の施肥量を多くすることで、着果率が向上し、果実肥大も良好となり収量が増加しました。
 (園芸研究部)